

令和4年度やまなし読書活動促進事業



図書館
司書が
選ぶ

こんな時、
この一冊。



令和4年9月9日(金)～12月4日(日)

あんな時、こんな時、あなたの人生に寄り添う1冊。それはきっと、かけがえのない宝物。読書の目的は人それぞれですが、その中で何度も読みたい本に巡り会えたら……その本は、うれしいとき、辛いとき、悲しいときなど、さまざまな場面できっと、あなたを支えてくれるでしょう。

山梨県内の公共図書館司書がとっておきの1冊を紹介する「こんな時、この一冊。」をお届けします。

あなたと本との素敵な出会いの一助となりますように。



やまなし読書活動促進事業（やま読）とは？



この事業は、家族や友人、親しい人などに本を贈る習慣を広め、県民一人ひとりの読書への関心を高めることで、読書習慣を確立し読書活動の推進を図ることを目的としています。山梨県教育委員会、図書館、書店等が連携し、「贈りたい本大賞」「ビブリオバトルやまなし」「やま読ブックフェア」「やま読ラリー」など、様々な事業を展開しています。

2019年、第13回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」を受賞しました。



そろそろ老後の生き方が気になり始めた時に

『老後とピアノ』

稲垣えみ子／著 ポプラ社

老後の人生を見つめる時期が来た。定年後やりたかった事を始める人もいる。この本の著者は50歳で会社を早期退職し幼い頃習っていたピアノを再開した。頭も体も衰えを感じざるを得ない年齢でも高みを目指して奮闘する著者に励まされる。軽やかな文章の中に胸が熱くなる言葉も。私もこんな生き方ができるだろうか。

(北杜市すたま森の図書館)

親子で道端の雑草に興味を持った時に

『子どもと一緒に覚えたい道草の名前』

稲垣栄洋／監修 加古川利彦／絵 マイルスタッフ

どこにでもあり、よく見かける雑草にもそれぞれちゃんと名前があり、面白く意外な性質があります。この本は、そんな雑草のユニークな名前の由来や特徴が分かりやすく解説され、親子で一緒に楽しめる一冊です。この本を片手に親子で散歩でもいかがですか。道端の雑草も愛おしく思えてきますよ。

(上野原市立図書館)

ちょっと無駄遣いしちゃったな、と後悔した時に

『三千円の使いかた』

原田ひ香／著 中央公論新社

もし今、現金3000円をもらったら、あなたはそれを何に使いますか？何に使うか、どこに重点を置くのか。「人は三千円の使い方で人生が決まるよ」という冒頭の一文から、お金の使い道について考えさせられます。この本に出てくる家族を通して、あなたのお金の価値観が変わっていくかもしれません。

(笛吹市石和図書館)

身近な鳥が気になった時に

『鳥類学者の目のツケドコロ』

松原始／著 ベレ出版

数年前、舞鶴城公園を散歩していた時、聞いたことのない鳥のさえずりが聞こえてきた。声のする方を見ると、青っぽくてお腹が茶色い少し大きな鳥がいた。後にイソヒヨドリだと分かった。

この本によると、本来海岸にいる鳥だが、近年内陸部で分布が拡大しているらしい。

その日以来、身近な鳥を観察することが楽しみの一つになった。

(甲府市立図書館)

両親に感謝の気持ちを伝えるのが恥ずかしい時に

『365日の親孝行』

志賀内泰弘／著 リベラル社

365の様々な形の親孝行をまとめた本。親孝行って何をしたらいいの？両親に感謝の気持ちを伝えたくてもなんだか照れくさくて言えない。こんな時、この本を手にとってみてください。きっと、照れ屋のあなたにも簡単にできる親孝行が見つかるはずです。後悔する前に、始めてみませんか？幸せな家族との時間が過ごせますように。

(市川三郷町立図書館)

思わず吹き出したくなった時に

『OH！ざわつくおにぎり』

おにぎり劇場／作 小学館

映えが流行っている現在、知らない誰かが作った何かが、知らないどこかでバズっています。

三角や丸じゃないおにぎりの変わりように誰もが驚くはずです。アートの域まで高められた、立体的で自立型のおにぎりをご覧ください。食べるのももったいない！どこから食べればいいんですか！そんな面白い一冊です。

(都留市立図書館)

草花の名前が知りたくなった時に

『のはらクラブのこどもたち』

たかどのほうこ／作 理論社

身近にある野原の草花をいろいろ紹介してくれます。学校の帰りや散歩などでよく見た草花には可愛い名前が付けられていて、思わず「へー!!」と口ずさんでしまいます。

名前には動物達がかくれているものが沢山ありびっくりさせられます。由来だけでなく遊び方も紹介しており、お弁当を持って観察に出かけてみたい一冊です。

(南部町立図書館)

よく眠れないと思った時に

『寝るのが楽しくなる睡眠のひみつ』

ヴィッキー・ウッドゲート／文と絵 創元社

私たちが生きていくために欠かせないものである、睡眠。そんな睡眠に関する謎や歴史、上手く眠るためのヒントが掲載された、睡眠のための一冊。優しい文章と可愛らしいイラストも満載で、就寝前の読書にも最適です。

身近でありながらあまり知らない睡眠の知識を得て、心地よい眠りの手助けにしたいかがでしょうか。

(山梨市立図書館)

子育てに悩んだ時に

『いつまでも』

アンナ・ピンヤタロ／さく 主婦の友社

作者の優しい絵と色使い、そして登場するくまの親子の会話から母と子の無限の愛情を表現しています。日々の生活に追われ、悩む事の多い子育て。初めて子どもの産声を聞いた時の気持ちを思い出させてくれました。いつまでも母でいたい、子どもの成長をずっと見守っていたい。親子でいることの幸せを感じられる絵本です。

(南部町立図書館)

ひとり旅に出かけたい時に

『ひとり旅日和』

秋川滝美／著 KADOKAWA

行き先や交通手段など自分で何もかも決めるひとり旅は不安もあるけれど、気の赴くままに行動し、無事行程を終えられた時の達成感は格別です。そんな旅は今コロナ禍でなかなか気軽に出来ないけれど、主人公の日和と追体験できるのがこの本です。実際の地名を日和と共に訪れ、彼女の成長を見守りながら楽しめます。

(笛吹市春日居ふるさと図書館)

ロシアのウクライナ侵攻が起きている時に

『父さんはどうしてヒトラーに投票したの?』

ディディエ・デニクス／文 解放出版社

ミュンヘンに近い町に住む少年ルディ。彼が見たこと感じたことを描くことによって、ヒトラーの台頭からナチスの支配、第2次世界大戦のドイツの敗北が描かれています。

今、ロシアとウクライナとの戦いが続いている最中、巻き込まれている子供たちも同じように感じているのでは? と思いを寄せました。

(甲府市立図書館)

一風変わった旅に出かけたい時に

『ゆきあってしあさって』

高山羽根子／ほか著 東京創元社

「ねずみ鶏の料理は絶品だね」「大ほふりの祭りは見た?」え、何その耳慣れない響き。

なんだ、作家3人の架空の旅行書簡集に出てくる単語なのか。

「見て、お土産の絵葉書」「こっちは民芸品」「本に写真でのってるよ」

あれ、本当だ。…じゃあ、これらは実在する場所?
(市川三郷町立図書館)

胸のつかえを取りたい時に

『逆ソクラテス』

伊坂幸太郎／著 集英社

小学生の頃の嫌な記憶を、思い出すことがある。理不尽な指導や同級生の言動など、言い返せずやり過ごしてしまったことを思い出す。そんな時、この本を読む。この本の主人公は小学生だ。彼らの行動と言葉はかつての私がたどり着けなかった答えを示してくれる。彼らの答えに触れたとき、だんだんと気持ちが晴れていくのを感じる。

(甲斐市立敷島図書館)

友達に会いたくなった時に

『ふたりはともだち』

アーノルド・ローベル／作 文化出版局

とても仲良しのかえる、がまくんとかえるくんの5つのお話です。ふたりは正反対の性格ですが、お互いのことが大好きな、親友です。コミカルなやり取りにクスッと笑えるお話も、お互いを思いやる気持ちに心が温まるお話もあります。仲良しなふたりを見ると、しばらく会えていない友達に久しぶりに連絡を取りたくなります。

(山梨県立図書館)

日常を楽しみながら過ごしたい時に

『センス・オブ・何だあ?』

三宮麻由子／著 福音館書店

4歳のときに光を失った著者。感じることは視覚を超える力もある。視覚で捉えて答えを出す前に、体や耳、鼻、舌で直接対象の存在を感じる方法を伝授している。

「音」で季節を感じる。「匂い」で進むのを感じる。子どもでも大人でも、世界をより深く、より楽しく感じられるようになるためのマニュアル的エッセイです。

(昭和町立図書館)

仕事にちょっと疲れた時に

『弊社は買収されました!』

額賀澤／著 実業之日本社

突然外資系企業に買収され全社員が戸惑う中、総務部所属の主人公は、会社のために奮闘します。変化を受け入れがたいベテラン、買収で会社が変わることに期待する若手、ベテランと若手に挟まれる中堅…様々な思いを抱えながらも一生けん命働く人々の姿に勇気づけられ、私も明日からまた仕事を頑張ろう、と思えます。

(南アルプス市立図書館)

仕事にやる気が出ない時に

『1日1話、読めば心が熱くなる 365 人の仕事の教科書』

藤尾秀昭／監 致知出版社

誰にでも、今日は仕事にいきたくないな、と思う日があるだろう。この本は、その道のプロ 365 人が仕事や人生観について熱く語っている。日めくりなので、今日のページを開くもよし、自分の誕生日を読むもよし。情熱を持った人々の言葉が、ちょっと疲れた体と心にパワーをくれる。前向き思考になれる一冊。

(身延町立図書館)

想像の引き出しを増やしたい時に

『世界のふしぎな色の名前』

城一夫、カラーデザイン研究会／著 グラフィック社

すぐに連想できる色の名前、赤、青、黄色。

では、マミーブラウンはどんな色。なんだかかわいらしい名前だけど、どんな色でなんでその名前なのか。自然現象や原材料、人物など様々な分野から由来する色の名前。あなたの好きな色は何色。想像力をふくらませながら見つけてみよう。

(大月市立図書館)

ちょっぴり寂しい時に

『サルくんとバナナのゆうえんち』

谷口智則／作・絵 文溪堂

サルくんはいつもひとりぼっち。何をしてもひとりだと楽しくない。ある日、遊園地でひとりぼっちのウサギさんを見つけた。いつの間にかウサギさんがかけがえのない存在になっていたサルくんは…

ちょっぴり寂しい時、サルくんの勇気ある行動やウサギさんの言葉にほっこりします。子どもだけでなく大人も楽しめる一冊です。

(昭和町立図書館)

宇宙のような大きな夢を持った時に

『さばの缶づめ、宇宙へいく』

小坂康之、林公代／著 イースト・プレス

2020 年、高校生たちが開発した「宇宙食さば缶」が、厳しい認証試験をクリアし見事宇宙食に採用されました。苦節 14 年、300 人以上の生徒たちが挑戦した、壮大な宇宙食開発プロジェクトの全貌を収めた感動の一冊です。

一人では叶わない大きな夢でも、大勢の人が希望を繋げることできっと叶えることができるのだと教えてくれます。

(中央市立玉穂生涯学習館)

本と人をつなぐ時に

『「一万円選書」でつながる架け橋』

岩田徹／著 竹書房

北海道にある廃業寸前の小さな「いわた書店」の店長が、知人のアイデアから「一万円選書」を始めます。すると経営が持ち直すどころか抽選が必要になるほどの盛況ぶり。

この「本離れ」の時代になぜここまで売り上げが伸びたのか？

その秘密がたっぷり詰まった本です。本と人をつなぐすべての方にお勧めします。

(忍野村立おしの図書館)

好奇心にかられた時に

『清少納言がみていた宇宙と、わたしたちのみている宇宙は同じなのか？』

池内了／著 青土社

ふと目にした本のタイトルに、目が釘付けになる事がありますか？ それが求める分野でなくても、思わぬ効果が…。

「科学を楽しむ理系知と物語を愉しむ文系知の融合」を意図された著者の思惑により、好奇心が抑えられずにはられません。

タイトルの答えが気になりますが、どの章から読んで楽しめる一冊です。

(甲府市立図書館)

こつこつと頑張りたい時に

『職人の手』

山崎真由子／著 KTC 中央出版

専業農家だった祖父母の手を見ると、かっこいいなといつも思います。長年の経験や勘を頼りに“いいもの”を生み出す職人の手も、やはりたまらなくかっこいいです。16 人の職人たちの、ものづくりにかける思いがじんわりと伝わってくる本書。技術の体得に時間を要する職人の世界で、こつこつと続けることの尊さを感じます。

(山梨県立図書館)

